

アルピコ交通(株)からの路線廃止協議の申し入れについて
【北屋島線・犀北団地線・小市線】

都市整備部交通政策課

3-1 小市線 概要

小市線（長野駅～小市団地団地）

1. 平日の日中の運行。
2. 路線の9割以上が地域間幹線系統と共通区間となっている。
→ 固有停留所は1か所のみ。

系統キロ：6.2km
 運行回数：2,420回
 実車走行キロ（年間）：15,004.0km
 営業収入：4,400千円

(2018年度)



■運行時刻表(2019年4月現在)

平日					
長野駅	8:45	9:45	10:45	12:45	15:00
差出	8:50	9:50	10:50	12:50	15:05
西河原	8:54	9:54	10:54	12:54	15:09
小市団地	9:01	10:01	11:01	13:01	15:16
小市団地	9:05	10:05	11:05	13:10	15:25
西河原	9:10	10:10	11:10	13:15	15:30
差出	9:12	10:12	11:12	13:17	15:32
長野駅	9:21	10:21	11:21	13:26	15:41

※土休日は全便運休

3-2 小市線 利用状況

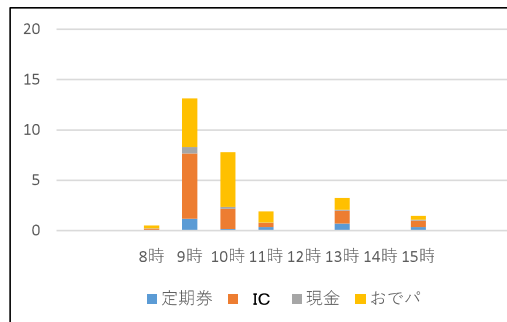
(集計期間：2019年6月)

- ・平日（月～金）で曜日を問わず平均的に利用されている。
- ・定期券比率は6%と低く、おでかけパスポートの利用が中心となっている。
- ・朝9～10時台に団地方面から市街地へ利用し、12時に帰宅するという利用傾向がみられる。

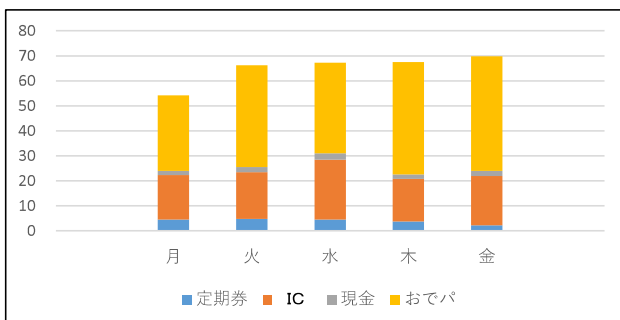
■平均利用者数

区分	平均利用者数
1ヶ月あたり	1,300人
平日1日あたり	65人
土日1日あたり	—人
1週間あたり	325人

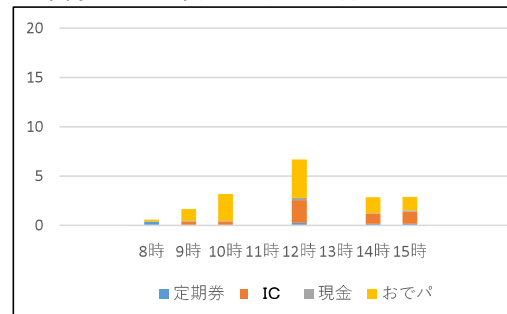
■小市団地から市街地方面への利用(平日・人)



■曜日別・利用形態別 1週間あたり平均利用者数(人)



■市街地から小市団地方面への利用(平日・人)



4 現状と課題

・該当3路線の収支状況は、大幅な赤字が続いている。

◆平成30年度(台風災害・新型コロナの影響なし)

項目	北屋島線	犀北団地・小市線
営業収入	56,000千円	29,000千円
運行経費	74,000千円	46,600千円
赤字	▲18,000千円	▲17,600千円

※小市線は、犀北団地線と一体的(同一車両)な運行を実施

- ①コロナ禍の中、路線バスの利用者は減少し、例年の水準までの回復が見込めない(前年の約8割)状況にあり、赤字幅は更に広がっている。
- ②路線バスの赤字は、高速・貸切バス事業の収益で補っている事業構造となっており、コロナ禍において高速・貸切バス事業の回復が見込めない状況下では、厳しい経営環境に置かれている。
- ③乗務員の長時間勤務等により人件費の圧縮を図っているが、「働き方改革」により拘束時間の短縮を求められているため、今後は新たな人員配置による人件費の増加が見込まれる。
- ④朝・夕の通勤・通学時間帯に利用者が集中し、そのピーク時に合わせた人員・車両を配置をしていることから、大幅な経費削減が図れず、利用者が少ない日中や通勤・通学と反対方向への便についても運行せざるを得ない状況にある。



自主運行による路線維持は困難

5 路線廃止協議(3路線)の対応について

- ・該当の3路線は、通勤・通学時間帯等に一定の利用者があるため、市が補助金を交付し、バス事業者が運行を継続する「**廃止路線代替バス**」として、市民の足を確保していく。
- ・「**廃止路線代替バス**」として運行を継続する際は、利用状況等から運行内容の見直しを図る。

【廃止路線代替バス】

民間バス事業者が廃止を表明にしたバス路線を、地域住民の日常生活に必要な交通手段として維持するため、市がバス事業者に**補助金**を交付し、運行を継続しているバス路線

※**補助金** … 経常費用から経常収益を差し引いた額を補助金として交付

◆路線廃止協議(3路線)

路線名	年間補助金見込額
北屋島線	16,000千円
犀北団地線	12,000千円
小市線	4,000千円
合計	32,000千円

◆現行の廃止路線代替バス(6路線)

路線名	年間補助金見込額
篠ノ井新町線	20,000千円
川後線	14,000千円
金井山線	19,000千円
松代篠ノ井線	4,000千円
赤柴線	7,000千円
大豆島保科温泉線	23,000千円
合計	87,000千円

